

# 平成29年度 みらいホーム 事業実績報告書

## 1 総括

入居者および家族の高齢化への対応、地域ニーズへの対応の為の規模の拡大、コーディネートの機能がここ数年のみらいホームの重点課題である。29年度は高齢化対策として既存ホームの移転による住環境整備と地域ニーズへの対応として2名の定員増、更に新規ホームの開設準備が中心的な事業となった。コーディネートの機能が充実については、高齢化等による家族機能の変化への対策への一環でもあり、徐々にその重要性は増しつつある。個々の入居者家族の状況を見ながら段階的に進めているが、応急的な対応になることが多く、支援内容の全体像が組織的に把握できていない。先の重点課題については今後とも継続して、長期的に取り組む必要があると考える。

## 2 事業概要

- 1) 施設名 みらいホーム（ユニット：アンダンテ、クローバー、藤ハウス、花の樹）
- 2) 事業種別 共同生活援助（介護サービス包括型事業所）
- 3) 所在地 東京都小平市大沼町7-5-33
- 4) 運営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 22名
- 6) 利用現員 22名（平成30年3月31日現在）

ユニット	定員	現員
アンダンテ	4名	4名（内男性4名）
クローバー	5名	5名（内男性2名、女性3名）
藤ハウス	6名	6名（内男性6名）
花の樹	7名	7名（内男性5名、女性2名）

- 7) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 8) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 9) 職員（平成30年3月31日現在）
  - 管理者 1名
  - サービス管理責任者 1名（兼務：常勤換算1.0）
  - 世話人 13名（常勤換算8.8）
  - 生活支援員 15名（常勤換算8.8）

## 3 基本理念

一人ひとりの自己実現の支援  
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築  
安心と希望のもてる生活

## 4 基本方針

- 1) 安定した日常生活の保障
- 2) 入居者一人ひとりの主体的な生活の支援
- 3) 入居者の相談支援
- 4) 安心できる将来への支援

## 5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援

## 7) その他日常生活に必要な支援

### 6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
15時40分～	17時00分	帰宅
16時00分～	20時30分	入浴
18時15分～	19時15分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

### 7 重点課題・目標に対する評価

#### 1) 高齢化や機能低下に備えた住環境の整備

住環境の改善が必要なクローバーの移転を行う。また、入居者が生活の変化にスムーズに対応出来るように、個別に新生活移行計画の作成を行う。

#### 【成果と課題】

クローバーは入居者の高齢化に伴う機能低下に対応する建物構造になってなく、数年にわたり移転計画に取り組んできた。28年度に土地を購入の上、30年3月に建物の建設が完了した。4月以降入居者の引っ越しとなるが、その準備や新生活に円滑に移れるよう、入居者および家族との個別面談や家族懇談会を実施し、新生活への移行について確認を行った。また、移転と同時に、定員を2名増の7名とし、緊急支援が必要な新たな利用者への対応をおこなった。次年度、生活環境の変化の影響について確認を丁寧に実施したい。

#### 2) 将来に備えたホームの機能拡大

##### (1) 家族が担っているコーディネート機能のホームへの段階的移行

個別にコーディネート機能移行計画を作成し、その計画に基づき現在家族が担っている役割を段階的にホームへ移行する。また、支援に必要なコーディネートの中核を担う職員を育成する。

#### 【成果と課題】

入居者22名の内、4名はすでに365日をホームで生活し、その内の3名については、その生活全般のコーディネートを後見人や関係機関との連携によりホームが担っている。その他家族がコーディネートの役割を担っている入居者については、必要に応じて家族、後見人等と、連絡を取り合い、支援の役割分担を行った。ホームが行う支援内容は、ここ数年徐々に増えており、季節に応じた衣類や寝具の管理、小遣いの確認、通院同行などの日常生活のことから、障害福祉サービスの利用やその他年金、健康保険の申請手続きなど、社会的な手続きに及んでいる。このように支援の量と内容は増えつつあるが、要望や必要性に応じて応急的に対応していることが多く、必要な支援内容の整理はまだ十分にできていない。今後、支援内容の整理を基に個別に支援計画を作成する必要があると考えている。

コーディネートについては2名の職員が中心となってその業務を行った。一つひとつの事案に対して丁寧な対応が行えたが、課題の整理や解決策の提示に関するスキルはまだ不十分であり、今後の課題となる。また、当該2名の職員については、下半期に社会福祉の法制度や法人の歴史に関する学習会に参加し、ホームの事業を法人全体また地域の視点からも見る力が持てるように育成を図った。

##### (2) 24時間365日支援体制に向けた運営費試算

高齢化等により日中ホームで過ごす状況になっても安心して生活できるよう24時間365日の支援体制の構築に向けて運営費の試算を行う。

#### 【成果と課題】

平成30年4月からの報酬改定および10月からの都加算の改定に伴い、年度末に公示された報酬単価等により、365日日中支援なしの試算を行った結果、年間約770万円の赤字収支となった。30年度末に、新規グループホーム開設を控えており、スケールメリットにより多少の赤字解消を見込んでいるが、その試算は実施していない。次年度に、より詳細な試算を行い、運営費の確保について検討する必要がある。

### 3) 入居者の生活の質の向上

- (1) 家族、関係機関、後見人等と情報の共有を行い、入居者の生活をトータルに支援できるよう連携を強化する。各種会議への参加、ケース記録等の記入と確認の徹底に取り組む。
- (2) ケース会議の充実、書面による入居者情報の共有によって入居者の状態に合わせた丁寧な支援を行う。

#### 【成果と課題】

必要に応じて家族、後見人等と連絡を取り合うことや、日中活動先や相談支援事業所など関係機関が集まる会議に出席することで、家族や関係機関と生活状況の共有が行えた。また、健康面、心情面等の日々の状態の変化については、ケース記録等へ記載し職員間で共有しながら支援を行った。しかし、職員によっては記録漏れや内容の完成度が低いことがあり、その都度ユニットの責任者が、過去にさかのぼり状況を確認することがあった。グループホームは日々職員が入れ替わる状況であるため、記録の精度は情報共有に大きな影響がある。記録を含めた職員の支援レベルの標準化は大きな課題である。

### 4) 地域の住まいのニーズへの対応

女性用グループホーム開設準備会を中心に平成30年度開設に向け、入居者の選定、物権確保、小平市との開設合意、東京都施設整備費補助事業申請相談の実施を進める。

#### 【成果と課題】

賃貸物件にて事業を開始する計画であったが、事業所が支払い可能な家賃や、その他条件に見合った物件が見つからず、土地を購入する計画に変更した。用地を確保し、設計監理業者の選定、建物の仮設計まで実施した。小平市とは、平成30年度開設の合意がとれており、東京都へ新規開設および平成30年度東京都通所施設等整備費補助事業申請の相談を行っている。30年度に、入居者の選定、補助金申請等を実施する。

## 8 その他の課題・目標に対する評価

### 1) 市内グループホームとの連携強化

GH・CHネットワーク小平の会において、法制度の動向や事業運営に関すること、また入居者支援に関することなどについて情報交換を行う。共通の課題等について一緒に検討することで、地域のグループホーム全体の充実を図る。

#### 【成果と課題】

市内でグループホームを運営している7法人が年に6回集まり、グループホーム見学会や情報交換、学習会等を行った。6回の内、3回は定例の会議を実施し、主に入居者支援に関する現状と課題について情報交換が行われた。毎回、殆どの法人が出席し、各グループホームの課題や問題に対し、入居者がより快適に過ごせる方法や、グループホームがより充実した事業を運営できるように、建設的な意見やアイデアが出されている。その中でも、高齢の入居者への支援については、多くの法人が抱えている課題であることから、グループホーム内の日中の支援状況や健康状態の維持管理方法、家族や後見人のかかわり方などについて、すでに対応している法人への質問等が多く出された。

また、残りの3回は、昨年度から始めた合同学習会を下の内容で実施した。各事業所が抱える課題について、事前に意見交換を行ったうえ、東京都福祉人材センターの事業所育成支援事業を活用し、学習会の内容を決定した。各学習会には約20名が参加した。

《学習会の内容》

- 1月・・・施設内のグループワークの基礎について、
- 2月・・・職員間のコミュニケーション方法について
- 2月・・・無自覚な虐待の防止について

2) バックアップ施設との連携

- (1) 巡回　－　月1回バックアップ施設担当職員が巡回し入居者との交流を図る。
- (2) 行事参加　－　入居者が施設の行事に参加することにより余暇活動の幅を広げる。
- (3) 緊急対応　－　ホーム職員の急なけが、病気、その他の理由により支援者が一時的に不足した際は、グループホーム施設長からの要請によりバックアップ施設職員が入居者の直接支援を行う。

【成果と課題】

月に1回、通所の3事業所の担当職員が3ユニットへの巡回を実施した。3ユニットの内、2ユニットは、浴場に外出の後、外食をしており、1ユニットは、毎月ホームで夕食をとるほか年に2回外食をしている。入居者は職員の巡回を楽しみにしており、ホームとしては、良い交流が図られていると感じている。行事参加については、一般就労している入居者1名がワークセンター夢の樹の行事に2回参加した。日頃、仲間との外出機会が少ない入居者にとって、行事の参加は楽しみの一つとなっている様子が伺えた。

9 実施状況

1) サービス実施日数	期間	自：平成29年4月1日	至：平成30年3月31日
(1) アンダンテ		365日	
(2) クローバー		316日	
(3) 藤ハウス		365日	
(4) 花の樹		365日	

10 利用状況

1) 入居者延人員	6,028人
2) 一日平均利用人員	17.1人

ユニット	入居者延人員	一日平均利用人員
アンダンテ	1,105人	3.0人
クローバー	1,415人	4.5人
藤ハウス	1,651人	4.5人
花の樹	1,857人	5.1人
合計	6,028人	17.1人

11 入居者状況（平成30年3月31日現在）

- ・30歳以上40歳未満　10名
- ・40歳以上50歳未満　9名
- ・50歳以上　3名

ユニット	30代	40代	50代
アンダンテ	1名	3名	
クローバー		3名	2名
藤ハウス	4名	2名	
花の樹	5名	1名	1名
合計	10名	9名	3名

## 2) 障害の状況

### (1) 療育手帳

愛の手帳 2度	8名	(内身障手帳所持 1名)
愛の手帳 3度	7名	(内身障手帳所持 1名)
愛の手帳 4度	6名	(内精神保健手帳所持 1名)
身体障害者手帳 1級	1名	(内愛の手帳所持 1名)
身体障害者手帳 2級	1名	(内愛の手帳所持 1名)
精神保健手帳 2級	2名	(内愛の手帳所持 1名)

### (2) 障害支援区分

・区分 2	1名
・区分 3	10名
・区分 4	5名
・区分 5	5名
・区分 6	1名

ユニット	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
アンダンテ	1名	3名			
クローバー		3名	2名		
藤ハウス		2名	2名	2名	
花の樹		2名	1名	3名	1名
合計	1名	10名	5名	5名	1名

### 3) 居住状況

管内居住	18名	管外居住	4名
------	-----	------	----

### 4) 性別

男性	17名	女性	5名
----	-----	----	----

## 1.2 環境の整備

事業所内外の美化と利用者身辺の整理整頓につとめ、転倒などの事故防止に努めた。

## 1.3 防災

年2回9月、3月に防災訓練を実施した。